

八潮市議会議員 あさだ和宏(42歳)無所属(民主・市民クラブ)



継続こそ・力なり!!
子育て世代の声を市政へ!!

未来の八潮・子どものために… 和宏のほっとかない!! NEWS vol.40〈9月議会報告〉

編集・発行

あさだ和宏を育てる会
会長 落合 利治
編集長 中井 欣也

〒340-0821 八潮市伊勢野306
TEL 048(995)0135
FAX 048(996)4361

●発行日 平成22年10月●

討議資料

子供に
ツケを
まわさない!!



プロフィール

1968年 3月28日
八潮市に生まれる(現在42歳)
市立大瀬小(八小)大原中(二中)を卒業
私立成立学園(商業科)を卒業
01年 (社)八潮青年会議所理事長
(青年会議所の事業を通して、
政治のあり方・教育問題に関心を持つ)
01年 9月市議選に立候補
(最年少候補(当時)33歳)
1229票12位当選
05年 9月
2度目の市議選に立候補(37歳)
1415票9位当選
09年 9月
3度目の市議選に立候補(41歳)
1733票3位当選
現在、3期目(民主・市民クラブ)
専修大学 法学部(2部)現在3年生

所属団体

地方政治改革ネット 会員
青年地方議員の会 会員

ホームページ

あさだ和宏

検索

祝・40号!!

おかげさまで、「和宏のほっとかない NEWS・40号」を発刊することが出来ました。

今年の夏は「猛暑」を乗り越えて「酷暑」の日々が続き、私自身も体調を管理するのが一苦勞でした。

暑く長かった夏が終わり、季節は「秋本番」を迎えて 山々の木々は綺麗に色付き始めて、実りの「秋」を迎えています。どうぞ皆様も、深まりゆく秋を堪能して有意義な時間をお過ごし下さい。

大きく躍進!!

八潮市が全国(809市区)「住みよさ」ランキング 総合60位!!

(前回125位)(都市データパック2010年度版 東洋経済新報社発行)

『住みよさランキングとは、各都市の“都市力”を表しており、住民の生活の場面に応じた安心度(414位) 利便度(255位) 快適度(29位) 裕福度(101位) 住居水準充実度(603位)の5つの観点に分類し、それぞれ50を平均値とする偏差値を単純平均したものです』

※()の数字は本市の順位です。

※近隣4市の順位 越谷市 276位 草加市 382位
三郷市 423位 吉川市 58位

この順位をどう評価するか、それぞれ考え方がありますが、私は、その自治体の持っているポテンシャルを表す一つの基準として活用するべきであると思います。

中には、評価の順位が低い項目もありますが、評価の高い項目を「まちの魅力」と捉えて、今後の市の施策にさらなる充実を図っていく必要があると考えます。

八潮市議会議員 あさだ和宏

議会報告会のお知らせ

- 日時 11月20日土曜日
午後7時～8時30分
- 場所 あさだ2F(伊勢野306)
- 内容 9月議会の報告、参加者との懇親等



※どなた様でも、予約無しでご参加できます。

一般質問

職員採用試験について

Q 職員の年齢構成の偏りを是正するために、採用試験の受験資格年齢の引き上げを実施、または検討している自治体が増加しています。本市でも、検討をする必要があると考えますが、市の考えを伺います。

Q 面接試験時に、職員の面接官以外に、民間の経営者等が面接官となり、試験を実施しているケースがあります。

試験の公平性・透明性の観点、優秀な人材を確保する二つの手段であると考えますが、市の考えを伺います。

A 本市職員の現在の状況：20代↓14.2% 30代↓19% 40代↓23.8% 50代↓43%

となっており、20歳代から30歳代の割合が低く、50歳代の割合が高い状況。その対策の一つとして今年度、一般事務職では学歴区分を実施「短大・高校卒↓21歳」「大学卒↓26歳」

その他、「一般事務職の「福祉」区分を設け、受験資格年齢を上限「26歳」に引き上げを実施。

A 今年度から従来のグループ討論試験に代えて、「集団面接試験」制を取り入れる。面接官について試験日が数日にわたることを考慮して、全て職員がおこなう。



●和宏の考え・意見

本市も職員の年齢構成に偏りがあり、今後職員の年齢構成の平準化が急務となっています。また今後数年間で、職員の大量定年退職を迎える時期であり、特に技術職関連の職員間での技術の継承等が課題であり、きちんと対策を講じていく必要があると思います。

民間人の面接官を登用する件ですが、私は職員だけで面接を実施することに異論はありません。しかし、これからの自治体は住民本位で行政経営をする必要があり、これからの職員像は、より柔軟な発想をいかに持っているか等が大切だと私は考えます。このような理由から、受験者の中から、より良い人材を発掘するには、違った視点で「人物像」を捉えることが出来る面接官が居ることが大切だと思っています。

人間、どうしても「自分と同じタイプ」の人間を好む傾向が強いと思います。(特に公務員の世界では・・・)

通学区域審議会の開催について

Q 本市は、駅周辺の開発に伴い、児童・生徒数が今後大幅に増加する学校がある一方で、児童・生徒が増加せず小規模校となっている学校もある状況です。この事は、教育指導の面からも、決して好ましい状況ではなく早急に通学区域審議会を開催する必要があると考えますが、教育委員会としての考えを伺います。

A 駅周辺の開発に伴い、駅に最も近い、大瀬小学校の入学予定者の大幅増が見込まれており、教育委員会としては、南部地区の通学区域の「部見直し」を主たる目的とした「通学区域審

議会」を平成23年度に開催予定。

また、進学先である南部地区の中学校の通学区域についても見直しの必要があり、潮止中学校と大原中学校の通学区域についても検討する。

Q 審議会の結論で「学区の変更をするべき」となった場合、最短で何年度から新たな学区となるのか？

A 平成24年度当初から可能。

●和宏の考え・意見

この問題については平成17年3月議会において一般質問で取り上げた件です。

左記のように、現在の学区では、大幅に児童・生徒が増加する学校がある一方で、小規模校のままの状態が続く学校もあります。この状態は、学校運営や教育指導面(部活動)でも少なからず影響があると考えます。

また、大規模校の場合、このままでは教室等が不足し、プレハブ校舎を増築するなどの対応も考慮していく必要があります。いずれにしても、通学区域の見直しは、単に学校だけの問題ではなく、学校周辺の地域自治とも関連があり簡単な問題でないと思います。

私の個人的な見解としては、来年度審議会が開催される中で、各委員からの意見を尊重しながら南部地区内での「通学区域の見直し」は急務であると考えます。



大瀬小学校



潮止中学校



大原中学校



今後の推移(教育委員会作成・見込み)

※現在の学区の場合

	平成23年度	平成28年度
大瀬小学校	548人 (20クラス)	978人 (31クラス)
大原中学校	745人 (20クラス)	857人 (26クラス)
潮止中学校	142人 (5クラス)	218人 (8クラス)

産科の誘致について

Q 現在、市内には産科がない状態となっており、市民からも産科の誘致について要望が多いと聞いています。

産科不足は、全国的な課題であり、誘致は容易なことではありませんが、誘致に関して積極的に行動をする必要があると考えます。このことについて市の考えを伺います。

A 市内には産科を標榜する医療機関がない状態で出産の際には近隣の医療機関を始め近隣自治体に依存している状況。

これまでも、出産を予定されている市民の方から、市民の声ボックス等を通じて市内に産科の誘致を要望する声が寄せられている。

今後も産科を開業したいという医療機関があれば、市としても積極的な対応していきたい。

(再質問)

Q 本市を含む近隣(5市1町)の中で「産科」がない自治体は?

A 八潮市のみ。

ちなみに5市1町の「合計特殊出生率」(平成20年)

越谷市	1.19
加西市	1.25
三郷市	1.18
八潮市	1.46
吉川市	1.47
伏見市	1.16
埼玉県	1.28
全国	1.37

合計特殊出生率は県内平均よりも高い数値なのに・・・産科がない(悲)

Q 多田市長は、市長選の公約にも産科の誘致を明記しているが、この状況についてどう解決していくのか

A 実は、昨年、市内に産科を開業したいという話があり、私も一緒に、

積極的に話し合いを進めたが、結果的に「草加市」で開業することになった。今後も、「産科の誘致」には積極的に取り組んでいきたい。

Q 今後、誘致活動を進めていく中で、優遇措置(例えば産科を設置する医療機関に税制上の優遇措置を行う等)を講じる考えは?

A 現段階では、そのような措置をする予定はなし。今後の検討課題としたい。

●和宏の考え・意見

産科医不足は、全国的な問題であり、産科の誘致は一朝一夕で解決する問題ではありません。しかし、答弁でもわかるように近隣でも産科がないのは「八潮市」だけという現状は、決して好ましい状況ではありません。

市民からも「市民の声ボックス」等を通じて要望が多いと聞いています。また私の所にも市民の皆さんからメール等で要望が多い案件の一つです。

誘致活動は、どの自治体でも実施していますので、私は自治体として出来る「優遇措置」を講じて積極的に誘致すること大切ではないかと思えます。

もちろん、財政的な負担が生じることが予想されますが、産科の設置により、より魅力ある自治体となって人口の流入、流失の防止等を防ぐなど、中長期的な視点として考えれば、ある程度の出費も必要ではないかと考えます。

公用車の貸出し制度について

Q 市民と行政との「協働」の観点から、町会や自治会等の活動時に市が管理している公用車(軽トラック・

ダンプ等)を、貸出しをする制度を実施している自治体があります。

同様な制度を実施することについて市の考えを伺います。

A 本市の「八潮市庁用自動車管理規則」では、市の正規職員以外は運転できない。また万が一、使用者が事故にあつた場合、市民団体による運轉者の損害はてん補されない。

以上のことから、現在の市の規定では市民団体への貸出しは出来ない。

●和宏の考え・意見

行政のお得意技?「できない・やれない」理由の答弁で、呆れました!(ちよつと、憤慨してしまいました)

今回、質問時間が無くなつてしまい議場内での議論をすることが出来ませんでした。

私は、法律や規則等は、社会的秩序を維持するための「指針」であり、それをどのように解釈するのが重要だと思えます。(もちろん法の趣旨を大きく逸脱してはダメです)

現状の規則等で出来ないのなら、どの点を改正すれば可能か、実施している自治体はどのように工夫、対応しているのか等、自分の頭で考えて運用するのが行政職員としての役割の一つではないでしょうか?

今回の件は、些細な取組みかも知れませんが、少しの予算で実施出来る「事業」であり、市が持っている財産の有効活用につながる事だと思えます。(二石二鳥・三鳥?)



9月定例会は、平成22年度決算の議案が審議され、建設水道常任委員会でも副委員長として実施した事業の費用対効果について検証しているかきちゃんと質問されていましたね。

一般質問では、今回も市民関心の高いテーマばかりでした。その中でも産科の誘致は市民の声BOXに要望が入るといふ市民の重大関心度である提起は市民満足度を向上させさらに行政の前向きな取り組みを引き出し、次のステップとして具体的な施策の提案ができ市民の心強さは増した!と感じました。以前も同じ質問がしましたが、重要な事は、連続であるいは定期的な議論が展開されると議会の真剣な取り組みが実感できますね。

市民関心の高いテーマ等は他の自治体でも実施している「議会報告会」を開き市民と直接キャッチボールをしていただきたいと思います。朝田議員、まずは会派からはじめてもいいのでは・・・



お忙しい中、今回も30名の方々に
お越し頂きました。(感謝)

和宏の独り言… ～周りを“変化させる力”～

皆さん、こんにちは～!

今回も、「和宏のひとりごと」を熟読して頂き有難うございます。

お陰様で「40号」を発行することが出来ました。今後も50・60…と継続して発行していきたいと思いますので、どうぞ愛顧をお願いします。

さて、先日、大リーグでプレーしている「イチロー選手」が「10年連続200本安打」という偉大な記録を達成しました。(素晴らしい!)

この記録を報じた記事の中に以外な言葉がありました。

その言葉とは「屈辱から始まった・・・」

イチロー選手が入団1年目の春季キャンプ時、地元のメディアからは「メジャーの投手から安打(ヒット)を打てるのか」と質問をされたという。(一生忘れられない屈辱の言葉だったという)

しかし、イチロー選手は入団1年目から10年間途切れることなく200本以上の安打を重ねてきました。

その結果、最近では記者からは「何でヒットが打てない(出ない)のか」という質問に変わったという。

つまり、彼の日々の、たゆまぬ努力が実を結び結果、**“周りを変化させる力”**となったと思います。地道に努力を重ねることによって、必ず周りが変化をして、その努力が報われる時があると感じました。

私自身、議員となり、9年が経過しました。

今まで休まずに議会では必ず、一般質問を行う、議会終了後ごとに広報誌(ニュース)を発行して市民の皆さんへ積極的に情報を公開する、議会報告会を実施する、等些細な取り組みかと思いますが、これからも継続して実施し、周りを変化させる力となるように頑張ります。

では、また～!

◎自転車ご用聞き・街宣活動を行いました

まだ、残暑が厳しい9月5日(日)に、友人と共に市内を自転車に乗って、御用聞き自転車街宣を行いました。この活動は、自転車で市内を回って、市民の方と直接、行政への要望や提言等をお聞きするという趣旨で実施しました。

見かけた方からは、「ん?なんの選挙?」と声を掛けられました。(笑)

次回、また実施した時に市民の方から貴重なご意見やご提言もお寄せ頂き、今後の活動に活かしていきたいと思います。自転車に「本人」旗の姿を見かけましたら、何なりと声を掛けて下さいね。



★編集後記★

～おうちのボヤキ～

今回、発行40号ということで、中井編集長から、「会長が編集後記を」と強引に頼まれましたので、私、落合が担当させていただきます。

何を題材に書こうかなあ～と思いつながら京都へ。十月二日(豆腐の日)に関西とうふ祭り「豆腐版B11グランプリ」が開催され京都で開催されました。

内容は豆腐スイーツ、自分で作る手作り豆腐体験など様々な工夫をこらした豆腐をより多くの人に食べてもらい、皆で協力して地域・豆腐業界を活性化しよう!とのコンセプトで開催されたお祭りです。当日は約千人のお客さんで賑わいました。

祭りが終り反省会(飲み会?)の中で「継続していかなければ今日の意味がなくなる」との意見が多数でした。そうです「継続こそ力なり!」

勿論、駄目な事を続けることや、目的もなく中途半端に続けているだけでは前に進みません。

行政の役割の一つとして、これからは場当たりの打ち上げ花火ではなく、「継続して力」になるような施策・事業を市民は望んでいます。

今回の、あさだ議員の一般質問は、以前から質問、要望していた、児童生徒数が増える現状を、行政側の対応策が中途半端のままで今日までできてしまったのはとても残念な結果です。

財政が厳しい、前例がない・・・言い訳を探して先延ばししては、現状を繰り返すだけです。

行政側も、シッカリとした意志をもって議論をするべきではないですか?

あさだ議員、これからの八潮の未来のために意見、提案お願いします!

今の八潮はシッカリとした「意志・柔軟性・優しさ」がとても必要です。